

G 中小企業経営・中小企業政策

【総評】

令和6年度の本試験は、中小企業経営・中小企業政策 42 問（昨年 42 問）のうち、中小企業経営が 21 問（昨年 21 問）、中小企業政策が 21 問（昨年 21 問）であり、例年通りの出題構成となりました。

しかし、5 肢択一の問題は、中小企業経営が 17 問（昨年 11 問）、中小企業政策が 0 問（昨年 0 問）であり、4 肢択一が多かった昨年と比べ大きく増えました。

正誤の組み合わせ問題は、中小企業経営が 2 問（昨年 2 問）、中小企業政策が 2 問（昨年 1 問）出題されており、こちらは概ね例年通りとなりました。

・当年の難易度

中小企業経営は例年と同様中小企業白書・小規模企業白書を中心とした出題で、中小企業政策は過去との類似問題や頻出論点が多く出題されました。そのため、全体としては、標準レベルの難易度になったと思われます。

合格点を確保するには、標準レベルの問題を取りこぼさないように確実に解答することが求められます。特に、中小企業政策の分野で繰り返し出題されている頻出論点については確実に正解できるよう準備をしておきたいところです。中小企業経営については、白書の概要を押さえた上で、中小企業の現状について一般的な知識をもとに選択肢を絞り込んでいけるかがポイントとなりました。

・新傾向や特筆すべき出題

(中小企業経営)

中小企業経営の分野では、白書の内容を中心に繰り返し問われている問題から、あまり見られない論点の問題まで幅広く出題されました。例えば、第3問や第10問は繰り返し問われている論点ですので押さえておきたい問題です。一方で、第7問、第8問、第15問などは、中小企業の現状などから類推し解答する必要があるので対策は困難だったと思います。

また、例年では4肢択一が多い中、5肢択一の問題が大きく増えたことで選択肢数の面では難易度は高まったと言えます。

(中小企業政策)

中小企業政策の分野は、例年通り頻出論点が多く、この分野でいかに得点を稼げるかが合否の分かれ目となりました。特に第17問、第18問、第19問、第23問は確実に得点しておきたい問題です。

一方、第21問の設問2など、頻出論点でありながら場合によっては無利子融資もあり得るため判断に迷う問題もありました。

また、第24問の「中小企業省力化投資補助事業」は今後注力していく分野の補助事業と言われており、毎年トレンドとなっている補助金については出題可能性が高いため、概要を押さえておくと得点源にすることができます。

【的中！合格模試】

中小企業経営の第2問、第10問、第13問と、中小企業政策の第17問、第18問、第19問、第23問は、合格模試で出題された論点でした。STUDYing 受講生においては確実に得点しておきたい問題です。

以上